麻布個人指導会の実力派講師が語る―

中学受験専門家庭教師座談会

第一志望校の合格を私たちが実現させます

麻布個人指導会では、今春も多くの受験生を第一志望校へと送り出しました。しかし、昨年の今頃を振り返ってみると、憧れの中学校に進学した受験生であっても思い通りに勉強が進まず、あきらめかけていたケースが少なからずありました。では、受験生と家庭を最後まで支えて志望校合格を引き寄せた〝プロの技〟とはどのようなものだったのでしょうか。この座談会で4名のベテラン講師の指導法に迫るとともに、2018年度入試に向けてのアドバイスを聞きました。

一人ひとりの状況に応じた的確な指導で合格を実現！

司会　まず、今春の受験生で特に印象的だった事例をお聞きします。横林先生は担当した全ての受験生を第一志望校、あるいは厳しい状況から第二志望校合格に導くという素晴らしい結果でした。女子学院中に合格したMさんは算数を苦手としていましたね。

横林　深く考えることをせず、覚え込みで解いていたので、少しでも問題に変化があると解けず、また時間が経つと忘れてしまうという状況でした。

司会　しかし、勉強に取り組む姿勢は備わっていて、早い段階から手応えを感じていたようですね。

横林　ノートの取り方はきれいで国語は得意だったので、問題文の理解はスムーズでした。まずは単元ごとの理解を徹底し、考えて解く習慣づけをじっくり行いました。目先の塾内テストのための勉強では本当の実力はつかないですからね。私の指導方針を本人も家庭も理解して任せてもらえたことが結果に繋がったと思います。

司会　駒場東邦中に合格したT君も印象深かったようですね。

横林　T君はMさんとは逆に、しっかり考えて答えを出すタイプ、地道に考えることを苦にしないお子さんでした。ですから、私はT君のその姿勢を大いにほめて、自信を持たせました。すると、どんどん前向きに勉強に取り組むようになっていったのが印象的でした。

司会　個性が対照的な2人でしたが、指導の柔軟さが光った成功例でした。次に渡辺先生が指導したRさんは鷗友学園中に合格しましたが、算数はかなり伸びたようですね。

渡辺　当初Rさんは○○算を使うと分かっている場合や「速さ」「割合」などと単元ごとに出題された場合には得点できていました。ところが、その手がかりがない場合や融合問題になったりすると、途端に解けなくなっていました。そこで私は線分図や面積図などの多くの問題で使える解き方をもう一回指導し、問題をいろいろなアプローチの仕方で考えられるようにしていきました。

坂口　先ほどの横林先生のMさんの事例と似ていますね。それまでは表面的な理解しかできていなかったのでしょうね。

渡辺　そうですね。さらにRさんの場合、計算を頭の中だけでやってしまい、途中式を書かないクセがあったのでミスも多かったです。計算も考え方もきちんと書くことが習慣づいてからメキメキと実力がついていきました。

司会　書いて考えられるようになれば成績は上がる、ベテランの先生はよく言いますね。西川先生が指導したK君は、挑戦校だった慶応普通部に見事合格しました。

西川　当初のK君は、公開模試では計算問題と一行問題でかなり時間を使ってしまい、後半の問題に手が回らない状況でした。その原因は小学校で習ったやり方をそのままに、やたらと時間のかかる計算の仕方をしていたからです。単純な計算も全て筆算していましたから、私は素早くミスなくできる合理的なやり方を教えてあげて、まずは計算力を底上げしました。

司会　計算力は算数の全ての問題で必要です。指導の成果として、K君は公開模試で力が発揮できるようになったのですね。次に坂口先生が指導したUさんは帰国生入試で渋谷教育渋谷中に合格しました。

坂口　英語と算数は塾で習い、最も苦手としていた国語を私が指導しました。国語の勉強は事実上、週1回の私の授業が全てでした。授業だけでは十分な勉強時間とは言えないので宿題を出したのですが、指導開始直後のUさんは何かと言い訳をしてほとんど手をつけない状態でした。ただ教えてもらうのを待っている受け身の姿勢のままでは、学力を伸ばすのは難しいであろうと判断し、そういう時にはあえて厳しく接することもしました。次第に改善していって、宿題も一生懸命やるようになったところで合格を確信できました。私はどのお子さんの指導でも単に中学受験のためだけでなく、進学してからも役立つような取り組む姿勢を育てたいと思っています。

司会　確かに勉強に対して受け身のお子さんは多いように感じます。自ら学ぶ姿勢の大切さを一対一で伝えられるのも家庭教師の強みです。

渡辺　そうですね。加えて「こんなにうちの子が変わるとは思わなかった」「流れが変わった」と驚かれることも多いですが、思春期と重なる難しい年頃だからこそ、家庭教師が入ることで勉強の流れがスムーズになるのだと思います。

西川　私は、教えたことをお子さんからもう一度私に説明し直してもらうことをしています。そうすることで理解が定着しますし、私の説明がどこまで浸透しているかを把握することもできるのです。家庭教師が寄り添ってじっくり読み込めば、一人でも読めるようになり、内容を理解できるようになります。記述についても、一対一ならではの指導が活きます。例えば登場人物の気持ちを問う記述なら、お子さんに「どんな気持ち？」と聞いて、次に「その気持ちになった理由は？」というように会話形式で進めれば、苦手なお子さんも書くことへの抵抗がだんだんなくなっていきます。

渡辺　確かに、書くことを怖がっているお子さんが多いので、そうやって少しでも書きやすくする工夫をしてあげると、実はなかなかの文章を書けるお子さんはけっこういます。

横林　とにかく後悔だけはしてもらいたくないので、家庭の意向を汲み取りながら、お子さんもご父母も納得できる中学受験へ導きたいと思っています。

渡辺　6年生が受験モードになってみなさんが真剣に勉強するようになると、頑張っていても相対的に偏差値が下がってしまうことがあります。そこで不安になるかもしれませんが、実力はついているのです。私は解けなかった問題がこれだけできるようになっていますよ、と数字にとらわれずに前向きなことを家庭に伝えています。母親がお子さんに対してプラスの気持ちを持てば、それはお子さんにも伝わります。しかし、それはマイナスの気持ちも同様に伝わってしまいます。

坂口　ご父母の目線に立ち考え方を後押しすることで、不安を取り除くことです。他の先生方もそうだと思いますが、それは大前提だと思っています。

西川　父親と母親とで意見が違うことがしばしばあります。しかし、成績を伸ばして志望校に合格させたいという目標は同じなのですから、そこは中学受験のプロという立場で、お子さんの合格に向けて最短距離となる助言を心がけています。

司会　中学受験は勉強のこと以外でストレスを感じることもあるでしょう。そこは百戦錬磨の先生方を信頼して任せていただきたいですね。

横林 芳雄（よこばやし よしお）

中学受験の指導歴は20年以上、当会で送り出した受験生は延べ150名以上にのぼる中核的な講師の一人。毎年、難関・上位校へコンスタントに合格者を輩出する一方で、伸び悩んでいる受験生の実力を伸ばす手腕にも定評がある。

最近の合格実績

筑波大駒場、開成、麻布、女子学院、雙葉、駒場東邦、慶応普通部、慶応中等部、早稲田、明大明治、海城、豊島岡女子、吉祥女子、鷗友学園、芝、暁星、本郷など。

横林　指導方針を理解してお任せいただけたら必ず結果を出します

一対一だからこそできる、家庭教師による指導の強み

渡辺　家庭に伺って指導する2時間を濃厚なものにするために、私も無理のない範囲で必ず宿題を出します。確かに最初は顔を曇らせるお子さんもいるのですが「ごめいね」「頑張ったね」とほめて認めてあげると、逆に意欲の向上に転じます。答え合わせまでやって、できたけれど不安なところ、わからなかったところなどを自分でピックアップできるようになったお子さんを見ると、とても嬉しくなります。

司会　ほめて認めてもらえるとやる気になる、お子さんに限らず大人でも同じです。

坂口 忠洋（さかぐち ただひろ）

中学受験専門塾の講師を歴任し、教室長として保護者面談や進学相談なども担当する。総合的な受験指導の腕を磨いた後、専門家庭教師へと転身する。学年や性別を問わず人気の講師で、多くのお子さんから慕われている。

最近の合格実績

武蔵、早稲田、早稲田実業、渋谷幕張、海城、巣鴨、鷗友学園、学習院女子、渋谷渋谷、城北、本郷、青山学院、立教池袋、明大中野、東洋英和、香蘭、実践女子など。

坂口　進学しても役立つ勉強に取り組む姿勢を育てたいと思います

●専門家庭教師

坂口　忠洋
西川　博
横林　芳雄
渡辺　奈津紀
（五十音順）

●司会

麻布個人指導会 課長　谷地又 俊明

渡辺 奈津紀（わたなべ なつき）

長く当会の専任講師として活躍している講師で、毎年多くの受験生を合格へと導いている。子どもの気持ちをつかみ、やる気を引き出すことを得意としている。特に女子に人気があり、上位校から中堅校まで女子校に豊富な実績を持つ。

最近の合格実績

慶応中等部、慶応湘南藤沢、豊島岡女子、白百合学園、吉祥女子、鷗友学園、頌栄、普連土、大妻、共立女子、富士見、跡見、山脇、恵泉、広尾学園、東邦大東邦、栄東など。

渡辺　自力で答えに近づくと達成感が生まれて好奇心も芽生えます

家庭が感じるストレスを解消するのもプロの仕事

司会　家庭からさまざまな相談を受けると思いますが、一意識していることを教えて下さい。

横林　算数ではどの部分がわからないのか、どこでつまずいているのかを、いかに見つけ出すかが指導の大きなポイントです。例えば文章題を苦手としているお子さんには、問題文を一文ずつ読んでは、その都度細かく問題の条件がわかっているかを聞きます。一人ひとりの理解度を分析して、考える取っ掛かりを作ってあげること。それが算数の家庭教師の仕事なのだと思います。

渡辺　そうですね。どこで引っかかっているかを知るため、ヒントを小出しにする場合にも「これは○○算だよ」とは言わないように気を繰り返しによって、好奇心も芽生えて算数を好きになってくれるのだと思います。

司会　お子さんの達成感から好奇心の向上へと導いていけば、得点も上昇しますね。

坂口　一対一の指導という点では国語もとても効果的です。国語ができないお子さんの大半は文章を読むことに不慣れで、かなり時間を割いて実行しています。家庭教師が寄り添ってじっくり読み込めば、一人でも読めるようになり、内容を理解できるようになります。記述についても、一対一ならではの指導が活きます。例えば登場人物の気持ちを問う記述なら、お子さんに「どんな気持ち？」と聞いて、次に「その気持ちになった理由は？」というように会話形式で進めれば、苦手なお子さんも書くことへの抵抗がだんだんなくなっていきます。

渡辺　確かに、書くことを怖がっているお子さんが多いので、そうやって少しでも書きやすくする工夫をしてあげると、実はなかなかの文章を書けるお子さんはけっこういます。

夏休みまでは土台を固め、過去問にも触れてみよう

司会　入試まで残り約8か月です。この時期の勉強の取り組み方についてアドバイスをお願いします。

西川　最初はほとんどできなくても構いませんので、早めに過去問をやってみるのも一法です。入試問題に触れることでモチベーションが上がります。

横林　上位校志望のお子さんは、応用問題をじっくり考えられるのはこの時期だけですから、いろいろな考え方を試してほしいです。そしてみなさんにやってほしいのが徹底してつけています。そこは自分で考えてただ「どう着いてほしいのです。そして、たとえ遠回りでも自力で答えに近づいたときには大きな達成感が生まれます。こうした指導の積み重ねが、子どもの自信になっていくのだと思います。

渡辺　過去問だと眼の色を変えるお子さんもいますね。私は指導では、夏休み明けから志望校と傾向が似ている少し易しい中学校の過去問を使います。8割方取れてきたら本命校の過去問に取り組みます。今は成績にかかわらず、算数は単元ごとの基礎固めをしっかりやっておくといいです。

坂口　公開模試の結果に一喜一憂しないで、志望校合格への希望を持ってほしいと思います。国語の得点アップの第一歩は選択肢の問題に強くなることです。そのために、文章をきちんと読めて大まかにでも内容をつかめるようにしましょう。記述問題はあせる必要はありません。

横林　上位校志望のお子さんは、応用問題をじっくり考えられるのはこの時期だけですから、いろいろな考え方を試してほしいです。そしてみなさんにやってほしいのが徹底して基本をチェックすることです。総合力は夏に養えばいいので、渡辺先生も話されたように今は単元ごとの土台を固めることが大事です。

西川　算数に自信のあるお子さんは、今から過去問に触れておいて、本格的な演習を秋に開始するのがベストです。それともう一つ、弱気になって志望校を下げてしまわないことが大切です。昨年7月の公開模試で志望校判定が20％未満だったお子さんが、夏以降の頑張りで難関校に合格している例もあります。まだまだ可能性は広がっているのです。

西川 博（にしかわ ひろし）

中学受験の算数指導の大ベテラン。キャリアに裏打ちされた指導は巧みで、粘り強く受験生の学力を志望校に挑戦できるレベルまで引き上げている。誠実で威圧感を与えない穏やかな物腰の講師で、主に神奈川方面で活躍している。

最近の合格実績

麻布、駒場東邦、聖光学院、ラ・サール、慶応普通部、慶応湘南藤沢、浅野、芝、攻玉社、世田谷学園、逗子開成、横浜雙葉、洗足学園、高輪、三田国際など。

西川　行きたい中学校の入試問題に触れるとやる気が増すものです

創立31年　学生は一切派遣していません

中学受験の専門家庭教師を派遣いたします

一人ひとりの合格こそが実績です！ 合格者のべ690名

2017年度　中学合格実績　（五十音順）

| 男子 | ＝123校のべ358名の輝くゴール＝ | | |